

第3回（平成19年度）IODP 部会・執行部会 議事録（案）

日時：2007年6月19日（火） PM14：30～17：30
場所：東京大学海洋研究所 A棟1階会議室

出席予定者（敬称略）

執行部：川幡穂高（東京大学）阿波根直一（北海道大学）荒井晃作（産業技術総合研究所）
安間了（筑波大学）池原実（高知大学海洋コア総合研究センター）
井上麻夕里（東京大学海洋研究所）北村晃寿（静岡大学）小平秀一（海洋研究開発機構）
坂本彦彦（海洋研究開発機構）高澤栄一（新潟大学）山崎俊嗣（産業技術総合研究所）

オブザーバー：

科学計測専門部会：齋藤実篤
文部科学省海洋地球課：宿利一弥 杉山真人
海洋研究開発機構 国際課：花田晶公 笹山岳大
海洋研究開発機構 CDEX：川村善久 木戸ゆかり
事務局：山田 泰 加賀谷一茶 梅津慶太

欠席予定者（敬称略）


執行部：日野亮太（東北大学）松本 剛（琉球大学）山田泰広（京都大学）山本啓之（海洋研究開発機構）

議事次第

1. 文部科学省による IODP の現状に関する視点 [宿利企画官]
2. J-DESC コアスクール [川幡部会長・坂本]
3. 乗船前レクチャーへの旅費支援(乗船旅費拡大)に関して [海洋研究開発機構 国際課]
4. 機関への Thank you letter について [川幡部会長・木戸オブザーバー]
5. 科学推進専門部会に関する事項 [荒井委員・山崎委員・事務局]
 - ・科学推進専門部会の役割と今後について
 - ・乗船研究者選考プロセス
 - ・掘削プロポーザル作成支援課題_募集結果
6. 孔内計測WGの再任および再編について [齋藤科学計測部会長]
7. IODP 孔内検層の実施体制と研究推進に関する提案 [川村オブザーバー・齋藤科学計測部会長]
8. 今年度の IODP キャンペーンについて [事務局]
9. 会員提案型活動経費選考委員の選出 [事務局]
10. その他
 - ・各国際委員会, 各部会の報告[各委員・担当者]
 - ・J-DESC-IODP 110番
 - ・その他報告事項
 - ・次回執行部会開催日程

配布資料

資料 1-1 Management Forum (3月) 英語版概要	資料 6 H19 年度孔内計測 WG の再任／再編について
資料 1-2 カウンシルアジェンダ	資料 7 IODP 孔内検層の実施体制と研究推進について
資料 1-3 6月 NSF-MEXT 会合アジェンダ	資料 8-1 H19 年度 IODP 大学&科学館キャンペーンについて
資料 2 J-DESC コアスクール	資料 8-2 日本科学未来館企画展「地下展」への協力
- プレーメン大学との交流について-	資料 8-3 Nan Tro Stage2 キャンペーン概要
資料 3 乗船レクチャーへの旅費支援(乗船旅費拡大)	資料 9 H19 年度会員提案型活動経費選考委員会(案)
資料 4 Thank you letter について	参考資料 1 IODP 執行部会 担当業務分掌
資料 5-1 科学推進専門部会の役割と今後について	参考資料 2 J-DESC コアスクール概要／支援申請
資料 5-2 乗船研究者選考プロセス	
資料 5-3 公募切後の応募についてのルール(案)	
資料 5-4 留学中の日本人への乗船支援実績／応募状況	
資料 5-5 IODP 掘削プロポーザル作成支援_募集結果	

 = 欠番。

本委員会資料の通し番号（暫定案）

※[IS07***]が通し番号になります。（IS=i-sikkou, 07=年度, ***=番号が入ります。）

資料 1-1	[IS07046]	Management Forum(3月)英語版概要
資料 1-2	[IS07047]	カウンスルアジェンダ
資料 1-3	[IS07048]	6月 NSF-MEXT 会合アジェンダ
資料 2	[IS07049]	J-DESC コアスクール -ブレーメン大学との交流について-
資料 3		乗船レクチャーへの旅費支援（乗船旅費拡大）
資料 4	[IS07050]	Thank you letter について
資料 5-1	[IS07051]	科学推進専門部会の役割と今後について
資料 5-2	[IS07052]	乗船研究者選考プロセス
資料 5-3	[IS07053]	公募〆切後の応募についてのルール（案）
資料 5-4	[IS07054]	留学中の日本人への支援実績／応募状況
資料 5-5	[IS07055]	IODP 掘削プロポーザル作成支援_募集結果について
資料 6	[IS07056]	H19 年度孔内計測 WG の再任／再編について
資料 7	[IS07057]	IODP 孔内検層の実施体制と研究推進について
資料 8-1	[IS07058]	H19 年度 IODP 大学&科学館キャンペーン
資料 8-2	[IS07059]	日本科学未来館企画展「地下展」への協力
資料 8-3	[IS07060]	Nan Tro Stage2 キャンペーン概要
資料 9	[IS07018_2]	H19 年度会員提案型活動経費選考委員会（案）
参考資料 1	[IS07016_2]	IODP 執行部会 担当業務分掌
参考資料 2	[IS07061]	J-DESC コアスクール概要／支援申請

第3回 IODP 部会・執行部会 議事録（案）

1. 文部科学省による IODP の現状に関する視点(宿利企画官)

宿利企画官より資料 1-1、1-2、1-3 に基づき、標記の件について説明がなされた。その後、川幡部会長・川村オブザーバーより補足説明がなされた。

- 今年1月に NSF-MEXT 会合、3月に Management Forum が開催された。
- 来週（6月26日～一週間）ドイツで IODP に関する一連の会合、SASEC、IODP Council Meeting、Members Meeting、BoG 会議が開催される予定。
- IODP が今年から3船体制になることで予算規模が前年より大きくならなければならなかったが、思うように増えなかったこと、JR 号の改造、掘削船の運行経費（POC）が大きくなってしまっていることから、IODP の予算状況が厳しくなっている（船を12ヶ月運航することが難しい）と NSF から話があった。
- そのため、FY08（2007年10月～）の年間計画について IODP-MI に MEXT と NSF から、予算規模を小さくして運営するよう指示をしている。
- 予算の使い方について、FY08 から、POC と同じように、SOC を IODP-MI を経由せずに回すことが出来るようにしたいとアメリカから提案があった。
- IODP-MI の将来ビジョン・縮小について話し合われた。MEXT としては、IODP 科学計画の全体を管理する役割としての仕事を損なわれないう、”Integrated”な国際計画としてふさわしいかどうかを見極めていく必要があると考えている。
- IODP-MI の縮小として、必要性の低い仕事を削減していくことや、ワシントンと西海岸に移動する and/or 2つのオフィスの統合することがあがっている。MEXT としては、予算に関して、今後の計画を実現可能なサイズへと変更していく必要性があり、そうしていくつもりである（何が必要で何が不要かを見極める）。

2. J-DESC コアスクール(川幡部会長・坂本委員)

参考資料2に基づいて、坂本委員・川幡部会長より標記の件について説明がなされた。

<説明事項>

- 現在の基礎コース・アドバンスコース・非破壊に加え、古地磁気、微化石、CDEX で行っている孔内計測についても J-DESC のスクールとして開催していく。
- J-DESC コアスクールを HP に追加する（趣旨や予定など）。
- ドイツとのコアスクールにおける国際交流について（大学院生・ポストクなどの短期交換派遣）、J-DESC としては前向きに考えている。日本がホストになる場合、高知の分析装置や TATSCAN などで貢献できるか。
- 日本からドイツの短期コアスクールに参加する場合、国際課としては JAMSTEC からの旅費支援は可能と考えている。
- ICDP でのボーリングスクール（プロジェクトを立てる人向け）も J-DESC コアスクールとともに HP に掲載する。ボーリングスクールへの参加費はかからない。

<承認事項>

- 一人8,000円で1コース合計支給額を上限8万円とし、スクールを開催した翌月に支払いをすることが承認された。
- ドイツとの国際交流について、J-DESC として前向きに検討していくことが承認された。

3. 乗船前レクチャーへの旅費支援(乗船旅費拡大)に関して(海洋研究開発機構 国際課)

国際課花田課長より標記の件に関して説明がなされた。

- 乗船前に高知コアセンターで行うプレクルーズレクチャーへの旅費支援を契約変更なしに現在の予算の範囲内で行うことが出来る。
- 場所は高知のみに限らず、乗船のための戦略や義務を打ち合わせする。
- 科研費などの予算を獲得している研究者には引き続き自助努力をお願いしたい。
- 科研費細目「地球システム変動」への応募についてもなるべくこちらに応募して欲しい。
- 成果の取りまとめについても必要である。
- 「ちきゅう」に乗る際のヒューエット（横須賀）もうまく組み合わせた形でプレクルーズレクチャーを開催する。

4. 機関への Thank you letter について(川幡部会長・木戸オブザーバー)

木戸オブザーバー・坂本委員・川幡部会長より資料4に基づいて説明がなされた。

- はじめに JAMSTEC、次に産総研の中期計画の中に「国際委員および (J-DESC などの) コミュニティーに対する貢献など」というような文言を盛り込まれることで Thank you letter が意味を成す。
- 大学の場合は、中期計画の社会貢献の中に盛り込むことは可能かもしれない。
- この話は次回の執行部会で行う。

5. 科学推進専門部会に関する事項(荒井委員・山崎委員・事務局)

資料5-1、5-2、5-3、5-4に基づき、標記の件について荒井委員より説明がなされた

- ・ 科学推進専門部会の役割と今後について
 - SSEP 委員の推薦については比較的スムーズである。これまでどおり公募形式でやるのが良い。
 - 各プロポーザルに Watchdog を 2~3 名つけ、プロポーザルの育成を行う。オーソライズは全員 (10 名程度?) で行う。
 - 新たに提出されるプロポーザルに対してアドバイスする組織として機能させる。
- ・ 乗船研究者選考プロセス
 - これまでのランキングプロセスは、事務局から応募リストを Co-Chief に渡し、Co-Chief がランキングした後、科学推進専門部会にランキング説明とともに渡す。その後、科学推進専門部会でオーソライズする。
 - 乗船者のランキングについて、一つの研究航海につき科学推進専門部会から Watchdog として専門分野が異なる 3 人つけ、乗船者の選考を行う。オーソライズは全員で行う。

本件 (科学推進専門部会の改善策) については、次回の執行部会で執行部会員から意見を聴取し話し合う。

- ・ 掘削プロポーザル作成支援課題 募集結果

資料5-5に基づいて事務局より標記の件について報告がなされた。

- 応募があった IODP 掘削プロポーザル支援課題は4件、要求金額の合計は約2,000万円。予算枠は1,000万円。
- 現在、科学推進専門部会で審査中。
- 最終的な支援額の決定は7月初めの小泉委員会で行う。

6. 孔内計測 WG の再任および再編について(齋藤科学計測部会長)

資料6に基づき、齋藤オブザーバーより標記の件について説明がなされ、承認が求められた。

- 本 WG に泥水検層を加え、それに伴い泥水検層に関連する 4 名程度の新規委員を追加、既存委員の 4 名程度を解任することで、全体の委員数は変えない。
- 長期孔内計測は技術開発推進専門部会や JAMSTEC 内で主に検討しているため、本 WG の柱にしていな
ない。この再編は縮小という意味ではない。
- この件については特に異論は無かったため承認された。

7. IODP 孔内検層の実施体制と研究推進に関する提案(川村オブザーバー・斎藤科学計測部会長)

川村オブザーバー・斎藤オブザーバーより標記の件について説明がなされた

- 孔内検層を行うための Logging Staff Scientist が CDEX にも ESO にも継続しているべきであるという話にな
っているが、CDEX としては常勤の LSS を雇用できない。
- そのため、研究機関ネットワークを構築し、J-DESC として「ちきゅう」に乗船するための LSS の推薦を
円滑に行うための体制 (Steering Committee または連絡協議会のようなもの) を整えたい。
- メンバーは孔内計測 WG が推薦する 5 名程度から構成するのが良い。
- LSS の継続的な派遣のために人材の育成・LSS 派遣のポテンシャルを持つ国内の拠点を増やすために
Logging School を開催する。

8. 今年度の IODP キャンペーンについて(事務局)

事務局・斎藤オブザーバーより資料 8-1、8-2 に基づき、標記の件について説明がなされた

- IODP キャンペーンは 7 月に千葉、10 月に鹿児島が日程決定済み。札幌、京都は調整中である。今年度開
催予定だった水戸は来年度 4 月下旬で調整中。つくばから開催の打診を受けた。
- NanTroSEIZE Stage 2 のキャンペーンを日本人の Co-Chief が中心となって 6 月下旬～7 月末頃の間で開催
する。
- 日本科学未来館で開催される企画展「地下展」への協力について、J-DESC として講師派遣を行う。

9. 会員提案型活動経費選考委員の選出(事務局)

事務局から標記委員の選出について要請があり、執行部会から山崎委員が委員長に、高知コア研究所の石川氏
が委員に推薦された。

10. その他

- ・ 各国際委員会、各部会の報告
 - 阿波根部会長補佐より、New Jersey は 7 月の後半から掘削開始予定、Bering Sea が 7 月 2 日に乗船者
公募の開始、8 月末に締め切り、Equatorial Pacific で追加公募を行う予定であることが報告された。
- ・ J-DESC-IODP110 番
 - J-DESC の HP に HELP DESK として、事務局の連絡先を記載し、質問に対応する。事務局は内容に
応じて、質問に答えられる人に流す。
- ・ その他報告事項
 - 事務局より、日韓合同シンポジウムについて今年の秋に K-IODP から開催したい以降の連絡があった
ことが報告された。
- ・ 次回執行部会開催日程
 - 次回は来月半ばメールで調整